

モモせん孔細菌病菌の動態

福島県果樹試験場病理昆虫部
平成15年度試験研究成績書

1 部門名

果樹－モモ－病害虫発生
分類コード 04－02－22000000

2 担当者

菅野英二・尾形 正

3 要旨

モモ栽培に伴う環境負荷の軽減を図るため、難防除病害の一つであるモモせん孔細菌病の効果的な防除法を確立する必要がある。そこで、本病の生態究明の1つとして、県北地方を対象に、せん孔症状に關与している細菌を調査した。

- (1) 福島市および伊達郡内のモモ園における「あかつき」、「川中島白桃」、「ゆうぞら」のモモせん孔細菌病発病樹について調査した。2002年9月には罹病葉、2003年5月には罹病枝、8月には罹病葉を採取し、罹病部位から常法に従い細菌を分離した。罹病組織ごとに分離頻度の高かった細菌コロニーをPPGA培地で培養し、簡易同定96-API(西山、1996)により同定した。また、同時に分離菌株をモモ葉に接種してその病原性を確認した。
- (2) 葉と枝の罹病部位からは普通寒天培地上に、黄色、円形の細菌コロニーが高頻度に分離され、簡易同定96-APIおよびモモ葉に対する病原性から、それらの菌株はすべて *Xanthomonas campestris* pv. *pruni* と同定された。
- (3) 菌株を採集した3園については2002年と2003年の2カ年継続して調査したが、分離菌株はいずれも *Xanthomonas campestris* pv. *pruni* であった。また、地域や品種による病原菌の違いも認められなかった。
- (4) これまで、本病原細菌には3種が記載されているが、本県の県北地方で発生している本病の主な種は *Xanthomonas campestris* pv. *pruni* であり、本菌に対する防除対策を講ずることが重要と考えられた。

4 その他の資料等

なし